

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	41	中村	高等学校	課程	全
------	----	----	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	地域の進学や部活動の拠点として、中高連携や学科間の横断的な取組により教育内容を充実させ、地域をけん引するリーダーとなる人材を育成する。 県西部の進学をけん引する拠点校として、中高6年間の探究的な学びを通じて新しい時代に求められる資質と能力を備え、地域の未来を切り拓くリーダーとなる人材を育成する。
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○自己の夢や目標を実現したいという強い意思を持った生徒を募集します。 ○自主的かつ意欲的に学習への取り組みができる生徒を募集します。 ○部活動や生徒会活動等にも熱心に取り組める生徒を募集します。 ○基本的な生活習慣が身に付いている生徒を募集します。 ○素直でやさしく、思いやりを持った行動ができる生徒を募集します。 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○学ぶ意欲を育み、主体的に学ぶ力を育成します。 ○部活動等の自主活動を奨励し、自ら実行する力を育成します。 ○探究学習を通して、次の5つの力を育成します。 ①情報収集力、②課題発見力、③連携力、④思考と判断、⑤表現と発信 ○勉強力・実行力・探究力をバランスよく育成します。		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○授業デザインプロジェクト・学力向上訪問による授業内容の改善 ○課題テストや授業課題等による家庭学習時間の確保 ○大学進学講座や模擬試験等の実施 ○ICTの活用や振り返りを重視した授業および中学・高校の教員相互参観授業の実施 ○進路講演等の充実

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価	【 B 】
・学習時間および自主学習の仕方の理解については、高学年に進むにつれ、当初の目的が概ね達成されている。今後は、家庭学習の習慣化および学習時間の底上げに向け、適切な分量の課題を課してはどうかと思います。 ・中高一貫教育のメリットを学力向上に活かすために、教職員の方々の意見を聞く機会があればいいと思います。 ・教育現場におけるAIの有効な活用について、情報共有を図ってほしい。	
【社会性の育成】 評価	【 B 】
・アンケートの評価指標について、「あてはまる」だけでなく「やや当てはまる」という選択肢も含めて、より実態に即した分析を反映させてはどうか。 ・ピアチューター制度の運用が着実に定着しており、中高一貫校ならではの異年齢交流が社会性の育成に良い影響を与えている。 ・地域貢献活動をはじめとする諸活動の推進は、生徒の社会参画意識を養う上で有益な取り組みであり、年度目標に掲げた目標も概ね達成されている。 ・社会性の育成には地域の人々と連携した探究学習を取り入れることが大事だと思う。	
【チーム学校】 評価	【 B 】
・取り組みの成果が表れており、良い方向に向いていると思う。先生方の努力のおかげです。 ・国公立大の合格割合が少なく思います。 ・働き方改革は制度的なものに加えて人間関係や仕事に対するやりがいや、満足度も多忙感に影響しているので、そのような視点からも何か対策があればよいと思う。また、教員業務支援にAIなども活用したらどうか。 ・不祥事防止については、経験の浅い若手教員の悩みに寄り添ってほしい。	

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○C層以上の生徒の増加 ○授業外学習時間の増加 ・1日平均学習時間1時間以上60%以上 《1年39.3%、2年46.9%、3年66.9%》 ○県アンケート「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」肯定回答95%以上 《1年91.4%、2年92.5%、3年96.6%》 ○県アンケート「自主学習の仕方を理解している」肯定回答80%以上 《1年79.3%、2年76.0%、3年93.9%》	○課題テストや授業課題等による家庭学習時間の確保 ○大学進学講座や模擬試験等の実施 ○ICTを活用した個別最適な学習や協働的な学びを取り入れた授業の実施及び中高教員相互による授業参観	C ○C層以上の生徒の割合 ・1年:0.7ポイント減 ・2年:0.2ポイント増 ○授業外学習時間の増加 ・1日平均学習時間1時間以上60%以上 《1年33.1%、2年28.1%、3年49.3%》 ○第1回「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」肯定回答95%以上 《1年97.1%、2年94.2%、3年92.0%》 ・第1回「自主学習の仕方を理解している」肯定回答80%以上 《1年76.2%、2年77.2%、3年74.7%》	○授業デザインプロジェクト・学力向上訪問による授業内容の改善 ○課題テストや授業課題等による家庭学習時間の確保 ○大学進学講座や模擬試験等の実施 ○ICTの活用や振り返りを重視した授業および中学・高校の教員相互参観授業の実施 ○進路講演等の充実	B ○C層以上の生徒の割合(11月模試) ・1年:1ポイント減 ・2年:1.2ポイント増 ○授業外学習時間の増加 ・1日平均学習時間1時間以上60%以上 《1年25.3%、2年43.6%、3年66.3%》 ○第2回「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」肯定回答95%以上 《1年91.2%、2年94.2%、3年91.4%》 ・第2回「自主学習の仕方を理解している」肯定回答80%以上 《1年64.1%、2年78.9%、3年86.5%》	○確認テストや小テスト、授業課題等による家庭学習の推進 ○中高教員相互による参観授業の継続 ○進路探究の充実
社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○県アンケート「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」(あてはまる)70%以上 《1年70.1%、2年58.0%、3年68.9%》 ○県アンケート「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」(あてはまる)70%以上 《1年71.8%、2年62.3%、3年70.3%》	○生徒会や生徒実行委員会による学校行事(体育祭・文化祭)の計画・実施 ○中高異学年で取り組むピア・チューターの実施 ○地域の人々にインタビューする地域課題探究(アクション)の実施	C ○第1回「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」(あてはまる)70%以上 《1年60.5%、2年71.9%、3年66.0%》 ○第1回「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」(あてはまる)70%以上 《1年63.4%、2年73.7%、3年64.2%》	○中高異学年で取り組むピア・チューター ○人権教育の充実(インクルーシブ教育、児童生徒のSOSの出し方に関する教育等) ○地域の人々にインタビューする地域課題探究(アクション)の実施 ○生徒支援の充実	B ○第2回「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」(あてはまる)70%以上 《1年55.9%、2年68.8%、3年71.2%》 ・第2回「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」(あてはまる)70%以上 《1年57.1%、2年70.6%、3年70.6%》	○アンケートの評価指標に「やや当てはまる」という選択肢を含める(より実態に即した分析のため) ○生徒主体の学校行事の充実(文化祭等) ○ボランティア活動の推進
取組項目	地域協働学習	○県アンケート「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」高3肯定回答70%以上 《79.0%》 ○県アンケート「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」高3肯定回答90%以上 《93.9%》	○地域の人々にインタビューする地域課題探究(アクション)等による地域理解の促進 ○地域でのボランティア活動の募集 ○部活動単位での地域貢献活動(イベント等への参加)	B ○第1回「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」高3肯定回答70%以上 《75.9%》 ○第1回「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」高3肯定回答90%以上 《89.5%》	○地域の人々にインタビューする地域課題探究(アクション)の実施 ○ボランティア活動の周知 ○地域のイベント等への参加	A ○第2回「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」高3肯定回答70%以上 《78%》 ○第2回「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」高3肯定回答90%以上 《90%》	○地域探究学習の充実 ○地域イベントへの参加 ○ボランティア活動の積極的な周知
	教科横断的教育	○県アンケート「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」高3肯定回答80%以上 《82.4%》	○地域の人々にインタビューする地域課題探究(アクション)の実施 ○探究学習の中間発表及び成果発表会の実施	B ○第1回「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」高3肯定回答80%以上 《81.5%》 ○総合的な探究の時間における探究活動の発表 《高1・高2各1回実施》	○地域の人々にインタビューする地域課題探究(アクション)の実施 ○探究学習の成果発表会の実施	A ○第2回「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」高3肯定回答80%以上 《81.6%》 ○総合的な探究の時間における探究活動の発表 《高1・高2各2回実施》	○地域課題探究の充実と発表の場の設定(なかむら未来学発信場) ○インターシブ・ボランティアを通して、社会課題に取り組む現場を体験

重点項目	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○10年、20年後の姿を意識させる進路指導の充実 ○学校全体での地域貢献	○魅力化・特色化の具体的目標(指標) ・国公立大学の合格割合:35%以上 《34.7%》 ・学校評価アンケート「中高一貫の成果がでている」85%以上 《82.2%》 ・地域貢献活動やボランティアへの参加率100%(のべ人数) 《100%》	B ○魅力化・特色化の具体的目標(指標) ・国公立大学の合格割合:35%以上 《25%》未定 ・学校評価アンケート「中高一貫の成果がでている」85%以上 《82.2%》12月実施 ・地域貢献活動やボランティアへの参加率100%(のべ人数) 《100%》	○保護者等への情報発信(HP、Classi、すぐる) ○部活動単位の地域貢献活動(イベント等への参加) ○ピア・チューターの充実 ○学校運営協議会(R8.2月予定)	B ○魅力化・特色化の具体的目標(指標) ・国公立大学の合格割合:35%以上 《25%》3/10現在(162名中40名) ・学校評価アンケート「中高一貫の成果がでている」85%以上 《79.1%》12月実施 ・地域貢献活動やボランティアへの参加率100%(のべ人数) 《100%》	○6年間を見据えた、体系的な探究 ○中高一貫の相乗効果を育む学校行事	
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○倫理観堅持のための具体的目標(指標) ・チェックリスト「上司や同僚、家族に相談できている」肯定回答80%以上 ○校内研修の実施回数:3回以上 ○不祥事防止委員会の実施回数:3回以上	B ○職朝や職員会等における定期的な服務規律の確保 ○校内研修及びチェックリストの実施	B ○不祥事チェックリスト(R7.6月実施) ○校内研修(R7.4.1、R7.6.9実施) ○不祥事防止委員会(R7.6.3、R7.8.19実施)	○職朝や職員会等における定期的な服務規律の確保 ○校内研修及びチェックリストの実施	B ○倫理観維持のためのチェックリスト「上司や同僚、家族に相談できる」88% ○校内研修 3回実施 《R7.4.1、R7.6.9、R8.1.13実施》 ○不祥事防止委員会 3回実施 《R7.6.3、R7.8.19、R8.1.8実施》	○風通しの良い職場づくり ○教員が自分事として考える校内研修の実施
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○安心・安全な職場環境 ○仕事への充実感の獲得	○時間外在校等時間前年度比3%以上減 ○働き方アンケート「多忙感の解消につながっている」肯定回答70%以上 《71.1%》	○教員業務支援員、部活動指導員の活用 ○会議時間の短縮・ペーパーレス化 ○在校等時間管理システムによる時間外在校時間の把握	B ○時間外在校等時間前年度比3%以上減 《7%増》(8月末時点) ○第1回働き方アンケート「多忙感の解消につながっている」肯定回答70%以上 《71.1%》	○教員業務支援員、部活動指導員の活用 ○在校等時間管理システムによる時間外在校時間の把握 ○行事の精選、日々の声掛け	C ○時間外在校等時間前年度比3%以上減 《6%増》(1月末時点) ○第2回働き方アンケート「多忙感の解消につながっている」肯定回答70%以上 《64.5%》	○会議時間の短縮 ○AIなどICTによる業務効率化 ○業務、行事の見直し